



NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL

「大刀剣市2012」の開催迫る

全国刀剣商業協同組合の最大の共同事業である恒例の大刀剣市を、今年も新橋の東京美術倶楽部で十月二十六日(金)～二十八日(日)の三日間にわたり開催します。会場は例年同様に東京美術倶楽部の三階と四階の二つのフロアを使い、受付は四階です。両階は各組合員の展示スペースのほか、組合展示スペース、特別展示の重文室、お宝鑑定ブース、現代刀匠銘切り実演コーナー、食器などで構成されます。入場料は三日間の共通券とカテゴリー代込みで二千円です。



今年も東京美術倶楽部で開催

「91年の第三回から名称を「大刀剣市」に変更し、'94年の第六回からは会場を現在の東京美術倶楽部に移して開催するようになりました。当初と比べると少しずつ様変わりし、出店希望数も毎年増え続けて現在では七十を上回る規模になっています。ここまで至るには、この共同販売事業にかかわってこられた多くの役員や委員、組合員の並々ならぬ努力があったことと思います。特に共同販売事業を始めて間もなくのころはすべてが手探りの状態であり、かなりの苦労と試行錯誤を重ねたと聞いています。当時は出店数が非

常に少ないこともあり、現在に比べると参加する側にとっても結構な負担となったようです。当時の実行委員会はこの問題を打開すべく、少しでも多くの組合員に参加していただけるよう、出店費をできる限り安くする策として一時期カテゴリー制作を中止したり、ブース形式をやめてガラスケースだけで会場を仕切ったりと、いろいろな工夫もされたようです。

一方、より魅力的な展示会にするために特別企画や刀職による実演コーナー、無料鑑定よろず相談(我が家のお宝鑑定)などを設け、内容の充実を図ってきました。これらの努力と工夫が相まって、毎年大勢の来場者を迎えることができるようになりました。近年は特に海外からのお客さまが非常に多くなり、今では世界中の日本刀愛好家や日本刀ディーラーから、大刀剣市は年に一度の大イベントとして認識されるようになりました。

四半世紀もの長きにわたり、この大刀剣市という共同販売事業を継続することができたのは、



多くのお客さまで賑わった昨年の大刀剣市

2012.9.15 VOL.7

発行人 深海 信彦
 発行所 全国刀剣商業協同組合
 〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
 新宿スカイプラザ1302
 TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
 http://www.zentosho.com

- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 編集委員 | 朝倉 忠史 | 飯田 慶雄 | 飯田 久隆 |
| 伊波 賢一 | 大平 将広 | 川島 貴夫 | 藤 隆正 |
| 齋藤 隆洋 | 齋藤 恒 | 嶋田 伸吉 | 齋藤 清高 |
| 齋藤 生野 | 網取 讓一 | 高島 吉治 | 高橋 深海 |
| 土子 民夫 | 松川 浩 | 服部 義行 | 宮澤 信彦 |
| 藤岡 弘吉 | 持田 具宏 | 松本 義 | 塚 隆 |

写真入り新組合員証・メンバーズカードならびに従業者証を作成

組合員の皆さまのご協力で新規メンバーズカードが8月末に完成、申し込まれた方に順次発送しています。

今後は新組合員証が身分証明ともなり、日本刀売買などの取り扱いや飛行機の搭乗手続き時の簡素化に今まで以上に効力を発揮するものと考えられます。

組合事務局では、随時更新手続きを行っています。必要書類は、本人カラー写真2枚(横2センチ×縦2.5センチ)、古物営業許可証のコピー。費用は組合員無料、従業者は2,000円となります。詳細は組合事務局までお問い合わせください。

目的にした啓蒙活動のほかにも一つ、この機会を社会福祉活動とする意義づけがあります。

大刀剣市では、難病を抱える子供たちに手を差し伸べる「明美ちゃん基金」に賛同し、毎年浄財を募って寄付させていただいております。さらに昨年の大刀剣市では、深海理事長の理念の一つでもある社会への貢献というところに重点を置き、われわれ刀剣商が社会にどのように貢献できるかをあらためて考え、平成十二年の「三宅島噴火義援金チャリティオークション」以来九年ぶりとなるチャリティオークション「東日本大震災復興支援チャリティオークション」を開催しました。そして昨年の大刀剣市はこのチャリティオークションともども、大変な盛況のうちに無事閉幕することができました。

今年も昨年のチャリティオークションのような特別な企画はありませんが、三階重文室において「清盛と頼朝の時代の刀」と題し、平安末期から鎌倉初期に至る古名刀やこの時代にゆかりの品物を一堂に並べる特別展を併催します。また四階で恒例の「我が家のお宝鑑定」、全日本刀匠会の協賛で現代刀匠による銘切りの実演も行います。

今年に入ってから、ヨーロッパではギリシャのEU離脱危機という問題がありました。その影響で、今度はスペイン国債の信用不安の広がりに伴う金融機関の急激な資金力低下を建て直すべく、大規模な金融支援策が今後行われようとしています。その結果、ユーロの価値が対円で大幅に下落し、ヨーロッパ経済の失速が昨今の日本の経済の現状を引き起こす一つの要因となっております。それがわれわれの刀剣界にも非常に大きな影響を及ぼしています。

今年も昨年の大刀剣市は初心に戻り、この共同販売事業を地道に成功させることで、短期的な損得でなく刀剣界全体にとつての後々の大きな利益に結びつこう、組合員各位のご協力を心よりお願いしたいと思います。

今回は例年以上にたくさんのお客さまをお迎えし、大いに楽しんでいただきたいと思います。

(朝倉忠史)

美術刀剣・刀装小道具商

やしま
齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

柳匠堂
柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六一二二三一一三二九
TEL 〇八六一二二三一一三二九
TEL 〇八六一二二三一一三二九
TEL 〇八六一二二三一一三二九

網取讓一

代表

〒104-0061
東京都中央区銀座二一一一四
TEL 〇三三三五四一八二〇九
FAX 〇三三三五四一八二〇九

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

福隆美術工芸

代表

甲冑 刀剣 刀装具 古美術 一般

〒104-0061
東京都中央区銀座二一一一四
TEL 〇三三三五四一八二〇九
FAX 〇三三三五四一八二〇九

町田久雄

三峯美術店

埼玉県秩父市野坂町一六六一
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四一三三三〇六七
FAX 〇四九四一三三三〇六七

大阪刀剣会
吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七一
TEL 〇六一六六三一一二二一〇
TEL 〇六一六六三一一二二一〇
FAX 〇六一六六四四一五四六四

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大刀剣市の保険システム

還暦過ぎても高額な保険金など一度も受け取ったことがないもので、今まで支払った掛け金を考慮すると、何かえらい損をしたような気持ちになるのですが、実際はそういう高額な保険金を受け取るような局面に遭遇しなかったことに、感謝すべきなのでしょう。

し、特にオープニングの直後はお客様が怒濤のごとく入ってこられ、通路は身動きが取れない状態になります。不届き者にとっては格好の舞台です。

できます。盗まれやすい、傷つきやすい、評価が曖昧である盗まれたのかわかりにくいか店主も判断できない場合がある、そして狂言の恐れもあります。

ビジネスに観点を置くと、店舗の火災、賠償しきれないほどの高額な品物の預かり、この商品が紛失・盗難に遭ったら店の屋台骨が揺らぐ、こういうとき保険の二文字を思い浮かべます。しかし、保険の契約の段になると、免責条項の多さと複雑さにとまどってしまいます。

先般、大刀剣市の開催期間中に加入する損害保険の説明会が行われました。気になる免責事項ですが、通常、立証が難しい「万引き」は不担保になるようですが、大刀剣市の性格上、この不担保を外し、会期中は万引きも補償されるそうです。

気になるのは、今までの契約では、簿価が百万円以上は保険金支払い対象外ということでした。このことを正確に認識していた大刀剣市実行委員は、果たしてどれだけの額でしょうか。

今年も大刀剣市の季節がやってきました。この準備にはさまざまな内容があり、閉幕した途端に着手しなくてはならないものもありますが、今回は図録の制作にかかわる通称「図録編集委員会」について紹介します。

■全刀商の活動紹介 「大刀剣市2012」図録編集委員会

くとも五回を数えます。それでも誤植はないか、作品のカラーはうまく出ているかと、神経を使います。

ただ今、編集委員はフル稼働していますので、十月初めには美麗でボリューム感いっぱい図録を皆さまにお届けできます。なお、委員は次の方々です。

朝倉忠史・飯田慶雄・齋藤隆久・齋藤恒・嶋田伸夫・清水儀法・網取譲一・服部暁治・深津尚樹・深海信彦・宮澤琢・冥賀吉也・持田具宏・青年部(大平将広・齋藤隆洋・新堀徹・服部一隆・松本義行・冥賀亮典)

また、交換会に出席できない方のために送付受付の窓口を設けました。その労を銀座長州屋さんと飯田高遠堂さんの二店にお願いしました。

委員は交換会当日、持参された刀や刀装具などの受付をし、申込書の記入内容や鑑定書のコピーの有無などをよく確認し、作品を撮影場所まで運びます。この日の委員は刀剣商として交換会に参加することもできず、撮影の立ち会いを経て所蔵店に作品を返却するまで、気の休まることがありません。

大刀剣市の出展者が確定すると、編集委員会を開いて図録のページ固めを行い、原稿を作成さらに写真が上がってくるのを待ってレイアウト、そして印刷所への入稿となります。

校正は八月末の初校作業に始まり、一月後の完成までに少な

組合こよみ (平成24年7月~8月)

- 7月1日 銀座・ルノアールにて『刀剣界』『全刀商』編集委員会を開催(校正)。出席者、深海理事長・清水専務理事・嶋田理事・網取理事・服部理事・持田監事・飯田慶雄氏・大平将広氏・齋藤隆久氏・生野正氏・新堀賀将氏・藤岡弘之氏・松本義行氏・宮澤琢氏・土子民夫氏。
- 13日 深海理事長が町村信孝衆議院議員の勉強会に出席。
- 13日 『刀剣界』第6号、『全刀商』第21号が入荷。
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加67名、出来高17,146,500円。
- 17日 組合交換会会場にて「大刀剣市」図録掲載品を集荷(第1回)。担当清水専務理事・嶋田理事。
- 17日 理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・川島副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・新堀理事・高橋理事・服部理事・冥賀理事。
- 17日 『刀剣界』第7号編集委員会を開催。出席者、深海理事長・網取理事・服部理事・冥賀理事・持田監事・大平氏・齋藤氏・生野氏・新堀氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏。
- 18日 「大刀剣市」図録掲載品を撮影(第1回)。
- 24日 名刀会会場にて「大刀剣市」図録掲載品を集荷(第2回)。担当清水専務理事・嶋田理事。
- 26日 「大刀剣市」図録掲載品を撮影(第2回)。
- 8月1日 銀座刀剣倶楽部会場にて「大刀剣市」図録掲載品を集荷(第3回)。担当清水専務理事・嶋田理事・服部理事。
- 2日 「大刀剣市」図録掲載品を撮影(第3回)。
- 3日 「大刀剣市」図録掲載品を撮影(第4回)。
- 7日 組合事務所にて「大刀剣市」図録編集委員会を開催。出席者、清水専務理事(実行委員長)・嶋田理事・高橋理事・服部理事・冥賀理事・持田監事・飯田氏・齋藤氏・藤岡氏・松本氏・宮澤氏・土子氏。
- 9日 清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事が産経新聞社を訪問、「大刀剣市」の後援を依頼。
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加60名。出来高13,526,500円。
- 23日 理事懇談会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・清水専務理事・朝倉理事・新堀理事・網取理事・服部理事・冥賀理事。
- 23日 義援金配分理事懇談会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・土肥副理事長・川島副理事長・清水専務理事・高橋理事・服部理事・冥賀理事。
- 30日 同美印刷にて「大刀剣市」図録編集委員会を開催(初校)。出席者、清水専務理事・嶋田理事・服部理事・持田監事・飯田氏・齋藤氏・生野氏・松本氏・宮澤氏・冥賀亮典氏・土子氏。

刀剣・書画・骨董 和敬堂

土肥富作・土肥豊久
〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

代表 田中勝憲

古銭・切手・刀剣 売買 評価 鑑定
(株)城南堂古美術店
〒153-10051
東京都目黒区上目黒四-3-11-10
TEL 03-3771-0167
03-3771-0168
03-3771-0169
FAX 03-3771-0167



風向計

其之三

深海 信彦

何業に限らず、その業界の好・不況の景気診断は、世界の経済や政治の状況と、それらに敏感に影響される日本経済の動向を見極めながらのものとなるが、それとは別に、各業界個々の事情も重要な診断材料となり得る。

世の中が好況に沸いているときに縮小を余儀なくされる企業もあれば、不況下にも業績を伸ばす会社もあるように、必ずしもすべてが世界や日本の経済の動きと比例しているとは言い得ないが、自身の力の及ばない絶対的な大きな力に左右されていることは否めない事実である。

それは太陽の周りを回り、しかも自らも回転している地球にも例えられよう。日本を含む世界的規模の政治・経済の核となるところのものが太陽、各業

界が太陽系の一つである地球だとすれば、地球は太陽の影響をまともに受けながらも一方で自転も繰り返しているのである。

この太陽を巡る公転の部分は日々の新聞やニュースに詳しく、日本中の誰もが現状を把握し得るのであるが、個々の特殊事情による業界の自転部分は報道されず、現況判断と先行きの見通しは各人によって異なり、また一致指数が表されていない業種も多く、全く先が読めないといったことも起こり得るのである。

さて、翻ってわが業界の公転と自転とを眺めてみると、業界自体にも二面性があり、しかも双方は関連し合っており動いている。つまり、小売り主体の業態と交換市場などが中心の商いとである。愛好家・収集家を対象とする店頭などでの小売りの活動

の売れ行きや値動きは、世の中の景気・不景気が購入動機の有無に直結する公転の影響を強く受け、業界内で行われる交換会などの取引相場は自転のもたらすところが大きい。

いずれも現在は最低ラインまで落ち込み、悲観的な見方が蔓延しているが、結論的に言ってもそれほど心配はなく、既に底は脱したとも言える。最近の報道によれば、外需がブレーキになり景気回復の足を引っ張っているようではあるが、わが国自体は大震災からの復興需要を背景に、緩やかではあるが回復しつつあり、依然として厳しい環境の中にありながら、内閣府などの発表による景気動向指数は強気に推移している。

一方、業界内における自転作用の影響は、五カ月前に起こった不払い事故により急速に市場が縮小し、出来高も相場も落ち込んだが、現在は実需に基づいた健全相場が確立され、下落は底を打っている。業界内では実は公転による影響よりもこの自転

による作用の方が数字にも表れて理解しやすく、また実感としても各人のマインドに深く刻まれるものである。

しかし、個々の業者も、後ろを振り向いてばかりはいられないというのが共通認識で、これから秋、年末・年始にかけて新たな戦略を立てたいところでもあり、市場も次第に活況を呈してゆくであろう。

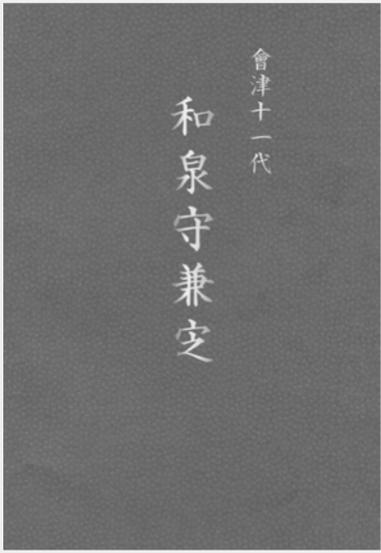
公転の影響は避けられなくても、自転こそは自らの努力で改善することが可能である。自転ならぬ自転車操業の売買で一時的に膨張した後には大きな被害を被るよりも、安全・確実な取引相場の方が永続性があり、また計算も立ちやすいものである。

太陽の影響を受けながら四季を織り成しつつ、刀剣業界自身も昼夜を繰り返している。遅まきながらようやく業界は、不払い事故の勇氣ある事前抑止が景気安定の要であることに気付いてきたところである。より良い自転のために、知恵を出し合う時が来ているのである。

「会津十一代 和泉守兼定展」のご案内

福島県の郷土刀工「会津十一代 和泉守兼定」の展覧会を、10月26日(金)～28日(日)、銀座泰文堂店内において開催します。

初期作から晩年作までの約40振を展示し、27日(土)午後のみ、土方歳三資料館館長・土方愛様のご好意により、通常は土方歳三の命日前後のみ資料館で展示している新撰組副長土方歳三の佩刀「和泉守兼定 慶應三年二月日」を特別展示します。また、27日午後3時より、今回の展覧会開催にご協力いただいた十一代兼定の研究家・外山登氏によるギャラリートークも予定しています。



会津十一代
和泉守兼定

大刀剣市開催中の展示ですので、ご来場の際にはぜひ併せてお立ち寄りください。

なお、和泉守兼定の図録を、1部2,000円で販売します。会場で行われる募金や図録による収益は、すべて十一代兼定の故郷である福島県に直接寄付させていただきます。被災された方々が、悲しみを乗り越え、一日も早く復旧・復興されますことを祈念します。

会期：10月26日(金)～28日(日)
午前10時～午後7時
会場：銀座泰文堂
東京都中央区銀座4-3-11
松崎ビル4階
☎03-3563-2551
地下鉄銀座駅B4出口すぐ
JR有楽町駅銀座口より徒歩3分

刀職紹介

第7回

〈研師〉小此木光岳さん



研師の小此木光岳(本名岳志)さんは、昭和三十八年生まれ四十九歳。この道に入るきっかけとなったのは、中学生のとき、人間国宝・故大隅屋平刀匠の鍛錬所を見学に訪れ、初めて日本刀の魅力に接したことだそうです。

その後、刀鍛冶を志した時期もありましたが、日本刀にかかわる「職人」になりたいという気持ちが強くなり、縁あって人間国宝・故永山光幹先生に入門されました。独立後は、刀剣研磨・外装技術発表会において特賞や優秀賞、努力賞などを数々受賞されています。

小此木さんは、刀を研ぐ際に刀の時代や特徴、持ち味を最大限に引き出すように心掛けて努めておられます。また、故永山先生に言われた「研ぎとは非常に根気の要る仕事であり、思い通りにいかず、時にはめげそうになる気持ちに鞭を打って、日々精進することを忘れるべからず」という言葉を胸に刻み、日々研磨に臨んでおられます。

〈金工〉川島義之さん



金工の川島義之さんは、昭和二十二年生まれの六十五歳。三十代の初めに、縁あって購入した現代刀に付いていた拵の鐔が刀匠鐔で、当時はその良さもわからず、「現代刀には現代の鐔が合うのでは」と思ったのが、趣味の鐔作りと刀を勉強するきっかけとなったそうです。

五十三歳のとき、勤めていた会社が合併、早期退職したのを機に本格的に刀職仕事に打ち込み、特に文字透鐔の製作に没頭されました。特定の師について修業したわけではなく独学で学ばれたため、試行錯誤を繰り返しながらも楽しんで鐔や刀装具などの製作をされています。

新作名刀展彫金の部では、優秀賞や努力賞を幾度も受賞されています。

川島さんは、鐔作りを行う上で、輝きのある黒錆にすることを心掛けておられるそうです。製作代金は特に決めていないので、注文される方との話し合いの上でのごこと。

研磨代金は、御刀を拝見させていただいた上で、状態によりご相談となりますが、目安として定寸で刀は二十五万円前後、脇指は二十万円前後、短刀は十五万円前後となります。

連絡先 ☎370-0426
群馬県太田市世良田一三〇
☎〇二七六五二三四五九

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 飯田高遠堂
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 泰文堂
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 090-8845-2222
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp



(前列左から) 赤荻清次郎、上野恒治、福與兼吉、齋藤一郎、佐藤陸雄、伊波富次郎(白水)、中宮峯二(敬堂)、——、飯田国太郎、茂木岩吉、——
 (二列目左から) 吉田定雄、——、伊波富彦、山本(名——)、齋藤忠重令夫人ツル、齋藤光喜令息大助、齋藤忠重令息幸一、鈴木貴久治、一条兼良、大平武男、飯田稔、池田稔、小林要太郎、池田大介(漢次)
 (三列目左から) 飯田一雄、飯田一雄令息智一、齋藤隆年(雅稔)、谷野弥太郎、齋藤忠重、——、中宮好郎、——、——、服部善三郎、齋藤光喜、——
 (四列目左から) 松岡秋広、菊一千秋、——、島(阿部)和子、永井孝二、松木敏男、佐藤次喜、武井(名——)、—— (敬称略、——は不詳)

一葉の記憶
 「刀剣界昔話」

黄金期を迎える直前の全刀会

全国美術刀剣会(略称「全刀会」)の前身である十六日会は、昭和四十年十月十六日に発足。二カ月の活動の後に、中宮敬堂翁の提案により、字音を共通する「寿禄会」に名を変え、さらに四十二年には全国美術刀剣会と改名した。

代表者は日本刀剣・伊波富次郎氏、会場は東京美術倶楽部である。

全刀会は会員全員が出資する、いわゆる「共同会」として現在に至り、その活動期間は間もなく五十年となる。

掲出の写真は、その全刀会の第一回目の旅行大会における参加者の記念集合写真である。昭和四十一年八月十六日。場所は、箱根の塔ノ沢にある環翠楼。

この全刀会誕生の数年後には、日本の国力は大躍進することとなり、歩みを共にする刀剣会は黄金期を迎える。

既に鬼籍に入られた方が多いが、今日の刀剣会に及ぼした影響は大きい。

この第一回旅行会には、参加者の約三分の一が招待者であるため、本文において一部に正確なお名前を特定して記すことが困難であった。行き届かぬ点はお許し願いたい。(齋藤隆久)

刀剣商リレー訪問⑦

菊一純平さん

古都鎌倉の匠店

今回のリレー訪問でご紹介させていただくのは、神奈川県鎌倉市の「菊一伊助商店」の菊一純平さんです。

歴史ある鎌倉駅の西口から、店舗が連なる御成通りを過ぎ、県道を右に長谷寺方面に向かうと、すぐに「菊一」と看板がかかった雰囲気の良い店舗があります。ガラスの引き戸を開けると、刀や小道具、さまざまな種類の包丁・ハサミ・刃物、そしてたくさんの砥石が並んだ包丁研磨の作業場があり、匠の空間に包まれます。

丁寧に迎えてくださった店主、主明様の後から、皆さん市場でお馴染み、素直で少しはにかんだ笑顔の純平さんが登場しました。

菊一家は、純平さんの曾祖父丑三さんが明治三十五年(一九〇二)、横浜で本阿弥系による刀剣研磨・修理、軍装仕立てを中心に創業されたそうです。中央刀剣会の横浜地域のお仕事もされ、多摩墓地にある栗原彦三郎氏建立の「軍刀報国碑」にそのお名前も刻まれているそうです。その後、二代目店主が菊一伊助商店とし、東京・世田谷区の尾山台にも出店、包丁研磨・刃物販売へ事業展開されました。この鎌倉へは平成二年に、両店舗を統合する形で開店されたそうです。

時代の流れとともにその営業内容は少しずつ変わって、今は日本刀・小道具類販売と、包丁・刃物の研磨・修理・販売とがバランスよく調和しているようです。

「いつも市場で売買している刀は？」と聞くと、「店頭にはあまり出さないんです」と笑って答えます。いや、私の右前ケースにあった、地鉄が整って刃文の華やかな龍彫りの腰刀、素敵でした。

ところで皆さんの中には、包丁や刃物の研磨にどれほどの需要があるか、と思う方も多でしょう。実は、私が訪問した八月の月曜午前のわずか一時間、四組のお客さまが包丁や大きな裁ち鋏などをお持ちになり、研磨を依頼していました。

今、包丁研ぎをするお店は全国的にも少ないそうです。切れ味の良い包丁を一度使うと、料理が楽しくなるのでリピーターが多く、また緑に囲まれ、鎌倉彫はじめ木彫が盛んな当地は、鎌倉彫刻刀の研磨需要も多く、忙しい毎日のようです。

純平さんが席を離れたとき、お父さまが「理系に進むと思っていたら、この仕事に入ってくれた。先日の創業百周年を機に、メインは息子にシフトしていくかと思ったんです」と話してくれました。親孝行ぶりにも感心したが、お父さまの覚悟も素晴らしい。

その純平さん曰く「修理を受けたものを、また喜んでいつまでも使っていただけるようにしていきたい。刃物を通じ、日本刀文化の窓口として、皆さんへの橋渡しができれば幸いです。そしてこの使命を、長く続けていきたい」。四代目としてこちらも立派です。

海まで歩いて也十分。皆さんも鎌倉にお出かけの際は、ぜひお立ち寄りになられてはいかがでしょうかと思います。

〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ヶ浜一三七
 ☎0467-330111 水曜定休 (伊波賢一)



菊一伊助商店と菊一純平さん

●交換会紹介●

【宇都宮会】
 今年の2月から、JR宇都宮駅近くのホテルニューイタヤで新たな交換会が始まりました。会長は、大光堂の店主大塚康徳氏です。

この宇都宮会の歴史は古く、元々は現会長の祖父である大塚源市氏が運営していた交換会でした。その源市氏が亡くなり、長く休会が続いてきました。

最近になって若手刀剣商たちの要望や協力を受け、また全国刀剣商業協同組合の理事長・理事の方々の支援もあって、再開にこぎつけました。

この交換会では、全く新しい試みを始めています。それは「交換掲示板」です。これは一般の競りとは違い、会長管理の小向かいのようなシステムです。やはり目垢を付けたくないという商品があるのも事実で、しかし不透明な取引になりがちな小向かいを、この交換会の役員たちが知恵を絞って、できる限り公平・公正に取引するシステムにしようとしています。

新しい世代に、新しい波を創り出すことが期待されています。この交換会は、毎月27日、JR宇都宮駅近くのニューイタヤホテルで開催されています。

会場=ホテルニューイタヤ 栃木県宇都宮市大通り2-4-6
 ☎028-635-5511
 開催日=毎月27日
 連絡先=宇都宮市中央5-7-5 大光堂 大塚康徳 ☎028-633-6349 (宮澤 琢)

若者広場

高橋 恒厳

心を一瞬で魅了できる 刀を目指す

三年半余りの施工期間を経て、東京スカイツリーがいよいよ完成しました。六百三十四メートル。赤城山から上京した際、「よし」と思い、少し遠回りして間近で見ました。天を射抜くようなその姿に、思わず圧倒されました。さまざまながあったこの国にとって今、この塔が建つこと、二十一世紀のシンボルとして、支柱の一つに加わることは、大変頼もしく感じます。

さて、同時期、私は十二年の修業を重ねた後、刀匠銘「恒厳」として、故郷・群馬県前橋の地に鍛刀場を構え、独立の一步を踏み出しました。

この道に入るきっかけは、学生時代に古書店で手に取った冊子『麗』『現存の優品』でした。それに載っていた宮入昭平師の記事を読み、この時代に日本刀を作る人がいることに驚き、また戦後の苦難を乗り越え、美術刀剣復興を支えた生き方に深く感銘を受けました。

山形での修業時代は、ただただ這いつくばって、しがみついた。



☆連絡先 03-710105
090-9146-7835

群馬県前橋市富士見町石井一六四一五

て、ひたすらに心と身体をタフにすることで、やっと親方の元に置いてもらった月日。不器用なこと、アタマがないことを教えられて、それでも刀が好きで作りたいと思い、頭の中に刀の格好があるなら何とか形になるんだと、そう習ってきた気がします。「鍛冶屋には鍛冶屋のアタマってのがあんだ……」。

よく言われました。

今目指す刀は「鎌倉」、ではなく、「心を一瞬で魅了できる刀」と答えます。史上の名刀をただ真似たとしても、世の中すべての人に「美しい」と感じさせることができるか疑問だからです。

関東では川崎晶平刀匠が、純粹な目で刀が見られるよう、志を持って若手を牽引してくださっています。この国の歴史の象徴である日本刀が、家々の未来を紡ぐシンボルとして共感される日が来ますよう、われわれの道を救ってくださる方々がいれば幸いです。

日本刀が永遠に輝きを放ちますように。

本名祐哉。昭和五十一年十二月十日、群馬県生まれ。上林恒平師に師事。平成十五年に作刀許可。二十四年、(公財)日本美術刀剣保存協会主催「新作刀展覧会」にて努力賞を受賞。

■一筆啓上

以前「松田次泰の世界」(かつきせつこ著)のブック・レビューで、松田刀匠を「責任の世代の刀匠」と書いた。これは自身の作品が世に出て独り歩きすることの恐ろしさを知っている、という意味で使わせてもらったが、「若者広場」に今回登場した高橋恒厳刀匠は作刀承認を受けて間がなく、がむしゃらに自分の作品と向き合っている世代だろう。

地鉄にとことんこだわり、鎌倉期の太刀の写しを何振も成功させている恒厳刀匠だが、そんな彼にも転機が目の前に来ているのか。

「売らんがための作刀」こんな言葉が恒厳刀匠の脳裏に浮かんだとき、初期の虫歯の痛みのように忘れさせてくれないものが、同じ年代の刀匠でかたくなに古刀にこだわり、このリレーコラムのバトンを待つ工藤将成刀匠の視線であろう。

佐野美術館の「日本刀の匠たち」で二人の作品を見れば、近い地域で近いものを目指していることは一目瞭然で、相互に理解者であり、友人であり、好敵手なのも明らかだ。友人を思い、独りコマシーヤリズムに走れないと悩む恒厳刀匠の姿が容易に想像できる。

彼らの先輩の川崎晶平刀匠は言った。「ツネゴンの刀が売れないようでは、僕たちの刀も裏付けを持たない」と……。

道を模索するに当たり、友人と歩み、時に迷い、先輩に助言を請う。これも若者の特権である。大いに語り合ってほしい。後悔をする前に。(綱取護一)

●交換会紹介●

【新橋会】

新橋会は、前身の築地会という名称で二十数年の歴史があります。先ごろの前代未聞の相次ぐ倒産で存続の危機に直面しましたが、7月より、東京美術刀剣商業協同組合の所有している新橋プラザの会場を借り、新たに「新橋会」の名称で無事引き継ぐことができました。日本刀を扱う私たちにとって、歴代がしっかり残してくれた素晴らしい伝統をまた次の世代へつなぐこと大切さを実感しています。ご参加をお待ちします。

当会は、午前中競り売りで、昼食後50万円以上の入札を行います。

会場=東京都港区新橋4-9-1
新橋プラザビル1401号室

開催日=毎月15日、売り番午前9時半抽選、競り午前10時開始、昼食後入札

連絡先=横浜市旭区さちが丘2
新堀孝道 ☎045-364-2893

【愛宕会】

本会は7月25日、新たに「愛宕会」として発足しました。初会には遠方各地より組合員の刀剣商から骨董商まで、若い方からベテランの方まで幅広い世代の方に多数来ていただき、会場がいっぱいになりました。

他の会にはない当会の特徴は、入札が10万円以上という安価に設定されており、入札参加者が多数いるということ。また、居合をやる方などの買い手も多く、売り手とのバランスが取れていて、入札のできる回数もきわめて高くなっています。

初会の参加者は50人以上に上り、午前10時半開始で、会が競り終わったのは午後5時半ごろ。昨今の景気低迷の中でも盛り上がりを見せました。他にはない手法の新たな会で、今後も盛り上がりを目指しています。

会場=東京都港区新橋4-9-1
新橋プラザビル1401号室

開催日=毎月25日、売り番午前9時半抽選、入札午前10時半開始、入札終了後競り

連絡先=横浜市旭区さちが丘2
新堀徹 ☎045-364-2893 (新堀賢将)

私が出会った珍品

〈土蜘蛛〉



縦74mm×横68mm

据紋象嵌で盛り上がった、いかつい顔の下からギョロッとした目玉が睨みつけます。瞳や白眼はどうやって細工されたのでしょうか。その入道の背後からは線象嵌で蜘蛛の巣が抜けなく張られ、向かいに平安武士が二人うたた寝をしています。

裏面には太刀が一口、忍び寄る蜘蛛の巣を絶つがごとく神秘的な威光を放って据え置かれています。細盤で彫られたその銘は、「元治乙丑季春 金原源政 明彫工(花押)」。

幕末の暗雲を名刀膝丸によって振り払ってもらいたいという願いが込められた作なのでしょう。

今まで見たことのない造りをじっくり見つめてみると、持ち主の数寄者は、この画題は土蜘蛛だよ。この二人は渡辺綱と坂田金時。土蜘蛛の術にかかって眠らされ、土蜘蛛がこれから主の源頼光を襲おうとする、頼光の愛刀膝丸が自ら鞘を払って土蜘蛛を退治するという話。知っているだろうか?と講釈されました。

何も聞かなければ「見て終わりだったと思いますが、蘊蓄を聞いて興味がかき立てられました。」

刀剣商は品物を引き立たせる説明ができなければ、普通の値段でしか物は売れません。しかし、知らないことを教えてお客さまから満足されると、その講釈代が売り値に反映できます。刀剣商の実力、腕の見せ所と言えるでしょう。

私にとってこの土蜘蛛鑑は、逆に、説明を聞いてにわかには欲しいと思う気持ちに駆られたお手本の品物です。売ろうとやる気持ちも悟られず、いかにも珍品、貴重な品物であるかのごとく講釈を受けました。

この鑑がしばらく店に飾ってあるのは、手放したくないからではありませぬ。特別保存刀装具にして原価の上があったこの鑑を、儲けて売れる日が早く来るように、腕を磨かなければならないと思いつける毎日なのです。

(松本義行)

イベント・レポート

佐野美術館「日本の匠たち」私の最高傑作

製鉄から作刀まで実地体験も交えて理解する

七月二十七日から八月二十六日まで、静岡県三島市の佐野美術館において第三回「日本の匠たち」私の最高傑作展が開催された。同美術館は平成十九年より刀剣に携わる職方の団体「たくみ会」と共催で、日本刀の技を継承し新たな創造の世界へと精進する刀匠たちと、それを支える刀職たちの作品発表の機会を増やすために「日本の匠たち」展を開催してきた。

本展覧会では刀工三十二名、職方九名が自ら選んだ傑作を出品。さらに今回は特別展示として、昨年他界された刀身彫刻の吾口仙琇氏の作品が集められ、合わせて八十五点が展示された。

優れた特別展を開催することで知られる同美術館では、同時に新たな愛刀家の育成、啓蒙を目的に数多くのイベントが例年多数企画されており、本年も体験講座として刀匠が作った小刀に土置きし、焼入れを行う「小刀の焼入れに挑戦」、五寸釘を鋸で叩いて伸ばし、砥石で研いでペーパーナイフを作る「五寸釘でナイフを作ってみよう」、和室で日本刀を鑑賞する「日本刀を持ってみよう」、日本刀を保存する上で欠かせない手入れの方法を学ぶ「日本刀の手入れ講座」など、多彩なイベントが行われた。

圧巻だったのは「日本刀公開製作」砂鉄が日本刀になるまで」と「職方公開製作」。両公開製作は、イベントの口切りとして二日間行われて行われ、製鉄から鍛錬・研磨・鞘製作・刀身彫刻・鍔製作・柄巻まで、日本刀製作の流れを包括的に鑑賞できる大変貴重な機会となった。

初日には伊藤重光刀匠が同美術館駐車場に炬を据え、砂鉄と木炭を交互に炬に投入し、吹子で風を送って鋳(鋼の固まり)を作る「たたら製鉄」を操業。現在では滅多に見ることが出来ないだけに、遠



たたらを操業する伊藤重光刀匠

方からの来館者や親子連れなど多くの見学者が集まった。

伊藤刀匠が製作した自家製鉄炉に大量の木炭と砂鉄が投入され、吹子で送風が始まると力強い炎が巻き起こり、その火力の強さに木炭はどんどん減ってゆき、新たな木炭と砂鉄が次々に投入されていった。

その後、伊藤刀匠の解説が始まると、見学者からは「この砂鉄を用いているのか」「温度の調整はどのようにしているのか」「いつごろからこのような製鉄が行われていたのか」など多くの質問が寄せられた。また希望者には吹子の操作や、木炭と砂鉄の投入を体験することが刀匠から提案され、多くの方が初めての吹子の感触や、炉の熱気に驚きながら楽しんでいった。

当日は三五度を超す炎天下にもかかわらず、二時間以上にわたる操業の間、見学者は途絶えることがなく、炬の中から真っ赤な鋼が取り出された後も質問は続いた。伊藤刀匠は「こちらも驚嘆すべき体力と使命感でその質問一つ一つに丁寧に答えられており、大盛況であった。」

筆者も当日、吹子の操作を体験させていただいたが、一見単純作業のように見えて実に難しく、速度のすべてがバランスよく行われないと空気を一定に送れない。刀匠はそれを行いつつ、炎の色、



公開鍛錬風景。横座は田中貞徳刀匠

二日目は天候が不安定だったが、滞りなく開催された。

海外版大刀剣市に学んだ相互交流の大切さ

San Francisco Sword Show

日本は猛暑が続く中、アメリカのサンフランシスコへ。カラッとした快晴で、過ごしやすい天気でした。

八月三日から五日までサンフランシスコエアポート・マリオットホテルのホールにて刀の即売会が行われた。いわば海外版大刀剣市。米国・ヨーロッパ各国・日本から八十店舗以上のさまざまなデパートが出席する米国内で一番大きなソード・ショーである。

特別重要刀剣や重要刀剣・重要小道具の品名から鎧身軍刀や小道具のうぶ品などまで、さまざまな日本文化の品物が各テーブルに所狭しと並んでおり、圧巻の光景である。終戦後持ち帰ったアメリカにはまだまだ多数のうぶ品や名品があるのかと、大変興味深い。

会場内では公益財団法人日本刀文化振興協会の大家寛信氏が柄巻を、池田長正氏が研ぎを、それぞれ持参した道具を使って実演していた。米国内には研師も柄巻師もごく少ないため、実際の仕事をみる機会が少なく、皆興味深く見ていた。

前日に製造された玉鋼を鍛接し、折り返し鍛錬に入る。炬から取り出された玉鋼はまさに黄金に輝き、鋸で打たれた瞬間響き渡る音は、うだるような響きを吹き飛ばすほど。時に表面のカスを飛ばすために、鋸を水に付け鋼を叩き、故意に水蒸気爆発を起こす。驚きとともに歓声が沸く瞬間である。

初日は刀剣の鑑定会「古刀から新々刀まで」

肥後鐺、透鐺について

三日目は刀装の勉強会「天正拵や太刀拵について」

参加者は、写真を撮りながら、一点一点の説明を熱心に聞いていた。

本刀は焼入れをすることによって反りが付くという事実を皆が目当たりにした。

平造りの脇指の完成である。打ち下ろした作品は順に手に取って鑑賞することができ、感動の渦に包まれた。公開実演終了後も質問は飛び交い、二日目は大盛況のうち幕を閉じた。

作刀とは一般的なイメージ以外に、冶金学にかなう緻密な計算をされた上での技術から成り立っている。刀匠とは、古来の術を使う現代の魔法使いか。

これらの展覧会やイベントは刀剣界の将来のためにも大変貴重な活動であり、佐野美術館には伝統の優れた技と心を広く紹介する企画を、これからも期待したい。

アメリカのディーラーたちは、「大刀剣市ツアー」と称し、毎年大刀剣市を楽しみにしている。



ソード・ショーで刀装の勉強会に参加

日光二荒山神社宝物館「宝刀展」

壯観！大太刀15振を含む宝刀45振を堪能

中禅寺湖を望む二荒山中宮祠において、二荒山神社本体山頂鎮座一三〇年記念ならびに宝物館開館五〇周年を記念して、七月十四日から十一月四日まで「宝刀展」が開催されている。開催前日のレセプションに参加することが許され、宝物館内覧会および奉納刀打ち初め式などを拝見することができた。

同神社は国内屈指の刀剣類所蔵神社として有名であり、一七六振が保管されている。今回、そのうちの四五振が厳選され展示された。われわれ名刀を拝見する機会がままあるが、大太刀の名刀を今回は初めてである。

加えて刀製製作当時の拵が同時に展示されており、このような機会は二度とないことと思われる。これを機会に、奉納された御刀を長年にわたり大切に保管してきた神社ならではの証である。

総長一五九センチ、刃長一二六センチ(四尺二寸六分)の大太刀「備州長船倫光」(国宝)はあまりにも有名であり、何度か拝見しているが、その倍以上の長大な総長三二四・一センチ、刃長二一六・六センチ(七尺二寸五分)の号・祇々切丸(重文)が正面入り口に展示されており、まずは度肝を抜かれた。

その横に刃長四尺一寸二分の号・瀬昇太刀(重文)と刃長四尺四寸六分半の号・柏太刀(重文)が展示され、まさに大太刀のそらい踏みといった感じである。国宝では前述の倫光と小太刀の来国俊が展示され、やはり製作当時の黒漆蝋蝋太刀拵が添えられ、非常に参考となる。

その他、滅多に拝見することのできない平安時代の剣二口、「一二」字のある鎌倉初期の剣や、カマス切先の古備前遠近(重文)なども見応えがある。

国宝二振、重文一振、県文一〇振を含む宝刀四五振が展示され、特に大太刀一五振が一室に拝見できる展覧会は今後二度とないと思われる。日光を観光しながらぜひ見てほしい展覧会である。なお、今回展示されている宝刀の全写真を載せている立派な図録「宝刀譜」が出版されている。

レセプションでは、午後五時より宝物館前にテラスカットが行われ、その後、今回の展覧会に尽力されたメトロポリタン美術館特別顧問・小川盛弘氏より一振一振丁寧な解説が行われた。

午後六時からは拝殿において宝物館開館五〇周年奉告祭が行われ、七時より境内に特設された鍛錬式会場において奉納刀打ち初め式、続いて刀剣作家宮入法廣刀匠と四名の弟子たちによる鍛錬式が披露された。

百余名の来賓の見守る中、ゴーゴーとなる鑪の音、暗闇の中、炎の色が赤から紫色へ、そして白色へと変化していく。柿色になった玉鋼が大鋸が振り下ろされた瞬間、四方に火花が飛び散り、まばゆい。静まり返った中禅寺湖の湖面に、カーンカーンという甲高い大鋸の音が響き渡る。男体山の山頂に鎮座する社にも、この大鋸の音は届いたであろうか。

荘厳な奉納刀鍛錬式は一時閉半にわたって行われた。来賓の全員が感激し、満足された様子だった。明日からの宝刀展の成功を祈念しつつ、闇に沈む神域を後にした。



「宝刀展」内覧会にて解説に耳を傾ける

(眞賀吉也)

武州八王子刀剣会

郷土の下原刀などを鑑賞

七月二十九日(日)、東京八王子の台町一丁目会館にて武州八王子刀剣会を開催しました。

講師に公益財団法人日本美術刀剣保存協会の事務局長で下原刀の研究者で



もいらっしやる後藤安孝氏を迎え、参加者三十名が集いました。

和やかな雰囲気の中、初心者向けにはわかりやすい解説、ベテランには質疑応答の形で懇切丁寧な説明、また刀剣にまつわる歴史上のエピソードなど、一回興味深く拝聴しました。

備前長船刀剣博物館「エヴァンゲリオンと日本刀展」

エヴァンゲリオンに日本刀はアピールできたのか。前回、戦国BASARAというテレビゲームとのタイアップで成功を収めた備前長船刀剣博物館が、七月十四日から九月十七日まで「エヴァンゲリオンと日本刀展」を開催しているというので、行ってみたい。

開催二週目で来場者が一人人を超えるほどの盛況と、長船の町全体で盛り上げているイベントの熱気にまず驚き、週末でもあったので、多くの家族連れやエヴァファンに出会うことができた。

この新しい挑戦は、職方の持てる技術を別の次元に昇華していた。その多数の作品や展示されていたオブジェによって、まるでエヴァンゲリオンの世界に自分が現実に存在しているかのように感じられた。

瀬戸内市立美術館公募展「日本刀」

「日本刀」とイメージしてそこから生み出されるすべての芸術作品をテーマに、一般公募を対象とした美術作品展が瀬戸内市立美術館で開催された。

審査員は映画監督やアニメ演出家、漫画家など、日本刀の知識が決して多いとは言えない方々だが、日本刀に抱くイメージと作品評価の目が非常に新鮮で、われわれ専門職が持っている価値観とは全く違う点が勉強になった。

江戸東京博物館「二条城展」

徳川家康が、江戸幕府の拠点として京都に造った二条城。京都旅行の観光コースには必ず入ってお

も、重大なのは江戸時代初期、幕府がまだお金をたっぷり持っているときに造ったお城が、そのまま残っているということなのだ。

二条城展(七月二十八日〜九月二十三日)を見るために江戸東京博物館に行ってきた。

は、狩野派が描いたという数多くの襖絵である。別に狩野派の絵がわかるわけではない。素晴らしいのはその襖の金具「引手」である。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

ご出席の皆さまに思い出話をと、藤代様、高山様、墨様、岩手県宮古市から来られた河野幸江様、父上が友人だった広井章久様にお願ひしました。

「刀身彫刻の神髄は、彫るのではなく、肉を寄せて高くし、立体感を出すのが大切である」と常々繰り返していたことが披露されました。

お知らせとお願ひ

本紙購読について。『刀剣界』は隔月で発行しています。現在、キャンペーン中につき、ご希望の方に一年間無料でお送りしています。

二条城展(七月二十八日〜九月二十三日)を見るために江戸東京博物館に行ってきた。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

お申し込み・お問い合わせ先

全国刀剣商業協同組合(全刀商) 〒169-0072 東京都新宿区大久保二一八一〇 新宿スカイプラザ三三〇一 TEL 03(3205)0601 FAX 03(3205)0089

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。

「刀身彫刻の鬼才」の思い出を紡いで。七月二十二日、東京赤坂のANインターコンチネンタル東京で「吾口仙琇先生を偲ぶ会」が開催されました。



発起人の渡邊佐野美術館館長が挨拶

催事情報

東京国立博物館

〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 ☎03(3822)1111 (代表)

東京国立博物館140周年 古事記1300年 出雲大社大遷宮 特別展「出雲―聖地の至宝―」

神話の国、出雲。荒神谷遺跡・加茂岩倉遺跡から、大量の青銅器群が発掘され、この地が古代の青銅器大国であったことが知られるようになりました。また2000年に出土した宇豆柱は、太い杉の丸太を3本束ねており、かつてそびえ立つ神殿が造られたことを物語っています。

現在、出雲大社では60年ぶりに本殿の修復や檜皮葺の屋根の葺き替えが進められています。この事業は来年3月に完了し、5月には御祭神を仮殿から本殿に遷座する「平成の大遷宮」が行われます。また、今年出雲を舞台とした神話や出雲大社創建についても語られている『古事記』が編纂されて、ちょうど1300年の記念の年に当たります。

これを機に出雲大社の宝物をはじめ、島根県を代表する文化財の展示を通して、独特の文化を形作った聖地、出雲を紹介します。



会期：10月10日(水)～11月25日(日) 月曜休館

会場：本館特別5・4室

〈主な見どころ〉

▽一章 出雲大社の歴史と宝物

出雲大社は、日本で最も古い由緒を持つ神社で、その創建は『古事記』や『出雲国風土記』に語られているように、神話の世界にまでさかのぼります。2000年に発掘された巨大な宇豆柱や本殿の復元模型とともに、大社の宝物である秋野鹿時絵手箱や後醍醐天皇が大社に宛てた文書、出雲国造の千家家と北島家に伝わった記録や絵図などから出雲大社の歴史を展望します。

▽二章 島根の至宝

荒神谷遺跡と加茂岩倉遺跡から出土した大量の青銅器は、弥生時代の社会のイメージを大きく変えることになりました。これらの遺跡から出土した国宝の青銅器79点と、製作当初の光輝く様子がわかる復元模造品も展示します。また、7世紀に出雲で制作されたと考えられる鱒淵寺の観音菩薩立像をはじめ、成相寺、清水寺、赤穴八幡宮の神像や、戦国時代の出雲の大名尼子氏が奉納したといわれる佐太神社の甲冑や須佐神社の太刀など島根の社寺に伝わった名宝を紹介します。

公益財団法人高梨本家 上花輪歴史館

〒278-0033 千葉県野田市上花輪507 ☎04(7122)2070

上花輪歴史館の伝来刀剣と男性装束

高梨家に伝えられてきた刀剣類(刀剣・鐔・鮫皮・贈答品など)と、男性の装束(袴・着物・羽織・煙草

入れなど)を展示します。

会期：2012年9月1日(土)～12月8日(土) 月曜・火曜日休館

広島城(財団法人広島市未来都市創造財団)

〒730-0011 広島市中区基町21-1 ☎082(221)7512

備後と安芸の刀と鐔

日本美術刀剣保存協会広島県支部との共催により、古刀から現代刀に至る広島ゆかりの名刀を紹介しま

す。

会期：9月15日(土)～10月21日(日) 会期中無休

刀剣博物館(公益財団法人日本美術刀剣保存協会)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木4-25-10 ☎03(3379)1386

特集陳列「写しの系譜」

工芸の世界では、先師の技術に学び継承し、自らの作風を築くということが長く行われています。日本刀もその域にあります。とりわけ古人の作風を手本とし、地鉄(鍛錬)や刃文(焼入れ)の形態まで倣う、いわゆる「写し」の文化があります。

この度は平安時代から連なる「写し」の系譜を、各流派・各作品を通して鑑賞しようという企画です。

併せて刀装具の世界における、構図を写すこと、様式を継ぐことにも注目し、虎と獅子を例に取って陳列しました。

作家たちが先師の作に何を感じ、どう自らの糧としたのか、本歌とはどう異なるのか、さまざまな視点から楽しんでいただければ幸いです。

会期：6月26日(火)～10月28日(日) 月曜休館(祝日は開館)

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井県福井市宝永3-12-1 ☎0776(21)0489

刀剣の研磨～千年の輝きの秘密～

千年を経ても当時の輝きを失わない日本刀の美は、世界にも類を見ない高度な研磨の技術に支えられてきました。古来の「差し込み研ぎ」の技法を伝える福井の職方の仕事も紹介しながら、現在では貴重な天然砥石を使用し、多様な工程からなる研ぎの技と、これらによって生み出される地刃の美の秘密に迫ります。



会期：9月7日(金)～30日(日) 会期中無休

〈主な展示資料〉

- ・脇指 備前国住雲重/応安三年六月日(古い差し込み研ぎが残る刀)
- ・刀 於武州江戸越前康継(藤川芳夫氏研磨)
- ・刀 越前国下坂貞次/立葵紋)重胴及度々末世鋸是也(藤川二郎氏研磨) 刀剣計37点
- ・日本刀研磨各工程で使用する道具類(砥石など)一式

▽ギャラリートーク

日時：9月9日(日)・23日(日)・30日(日)午後2時～

会場：企画展示室

▽日本刀研磨実演

日時：9月15日(土)・17日(月・祝) 午後1時30分～3時

会場：当館講堂

研師：藤川芳夫氏・藤川二郎氏

社日本鉄鋼協会「鉄の技術と歴史」研究フォーラム

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1 千葉工業大学工学部 機械サイエンス学科 寺島研究室内 FAX047(478)0329

震災復興支援・第24回フォーラム講演会「東北地方の鉄生産技術と文化」・見学会

東日本大震災に見舞われた東北地方の復興支援ならびに釜石地区における産業遺産群の世界遺産登録を応援する目的で、第24回フォーラム講演会「東北地方の鉄生産技術と文化」と見学会を下記により開催します。全国から東北地方の復興を願う方々が多数参加されることを期待しています。

▽日時・会場

- ①講演会 11月10日(土)10:00～16:40 県立釜石商工高等学校
- ②懇親会 11月10日(土)17:30～19:30 釜石ベイシティホテル
- ③見学会 11月11日(日)9:00～15:00 新日本製鉄(株)釜石製鉄所・釜石鉱山フィールド

▽参加費

講演会2,000円(含論文集代)、見学会3,000円、懇親会5,000円

▽申し込み

〒981-8007 宮城県仙台市泉区虹の丘1丁目13-34 高橋礼二郎 FAX022(373)6799

E-mail: takareijiro@yahoo.co.jp

▽主な講演

- ・宮古市における古代製鉄遺跡と鉄作り体験講座(長谷川真)
- ・岩手県住田町・子飼沢Ⅱ製鉄遺跡の調査と問題点(星雅之)
- ・ホッパの会(たたら研究会)の活動と展望(勝部欣一)
- ・南部鉄瓶の製作技法(田山和康)
- ・砂鉄から鉄鉱石原料への過渡期における餅鉄の役割(尾崎保博)
- ・釜石の鉄産業遺産群の現状と世界遺産登録への取り組み(森一欽)
- ・日本産業の基礎を築いた近代製鉄の父・大島高任(半沢周三)
- ・映像記録：丸森町筆甫での餅鉄による製鉄実験(長島節五)

公益財団法人日本刀文化振興協会

〒115-0044 東京都北区赤羽南2-4-7 鷹匠ハイツ301号 ☎03(5249)4440

▽日本刀特別鑑賞会(会員限定)

日時：9月25日(火)14:30～16:30 会場：目白庭園「赤烏庵」(和室) 豊島区目白3-20-18(JR山手線目白駅徒歩5分) 参加費：2,000円 定員：20名(先着申し込み順、9月18日締切)

▽第11回日本刀・刀装具公開鑑賞会

日時：10月6日(土)13:30～16:00 会場：江戸東京博物館 墨田区横綱1-4-1

参加費：会員無料、一般2,000円

▽第2回「吉原國家 小柄小刀焼き入れ会」

日時：10月7日(日)9:00～17:00 会場：日本荳鍛刀所 葛飾区西水元2-18-11 講師：吉原國家刀匠 会費：45,000円(会員限定) 定員：5名(先着申し込み順) ※汚れてもいい服装(仕事着・軍手など)で参加のこと。

日本刀剣保存会

日本刀剣保存会は、明治43年10月13日の機関誌『刀剣と歴史』発刊に遅れること2年の大正元年10月に設立されました。今年で設立100周年を迎える、日本で最も古い刀剣研究会です。創始者は、旧水戸藩士で、非行少年の更正事業に尽力された高瀬羽幸です。

本会は日本刀の保存およびその研究を目的とし、機関誌『刀剣と歴史』を年4回発行、本部研究会は8月を除く年11回、その月の第2土曜日に新宿区信濃町駅近くの東医健保会館で開催しています。阪神支部研究会も同じく年11回、第4日曜日に大阪市天王寺区の生国魂神社で開催、入札鑑定などを行い会員の観刀の向上に努めています。また、毎年各地で秋季鑑賞会を開催し、全国会員の融和に努めています。最近では、若い方や女性も参加されています。初心者の方の指導も丁寧に行い、定着率も向上

本部〒157-0063 東京都世田谷区粕谷4-9-14 ☎03(3305)0848

してきています。

そのほか、刀剣・装剣具の審査会を本部において、毎月第2日曜日に行っています。海外審査は毎年開催し、去年は豪州のシドニーで、今年も米国のタンパにて、それぞれ刀剣・装剣具合わせて300件以上の審査を行い、海外の会員に喜ばれています。

会の代表者は、初代の高瀬羽幸に続いて、二代が近藤鶴堂、三代が吉川賢太郎です。現在は顧問を中村正衛・福永酔剣・苦野敬史、常任幹事を佐野昌男・岡田守可が勤め、幹事6名、評議員29名(海外も含む)の役員で会を運営しています。

ホームページアドレスはhttp://nihontouken.orgです。